

I 先行する神の恵み。えこひいきされない主。「あなたがたは、私たちの主、栄光のイエス・キリストへの信仰を持っていながら、人をえこひいきすることがあってはなりません」：1。私たちが信じている主は、私たちを、そして世界中の人々をえこひいきされない素晴らしい義と愛の主であることを覚え感謝しましょう。※えこひいきは、人間関係でも好ましくありません。その主に私たちは、差別されず、救っていただき、深く愛されているのです。「キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあて、一つだからです」(ガラテヤ3：27, 28)。神は、人種や職業、地位、身分、経済力、家庭環境、男性、女性で差別やえこひいきをされません。「神にはえこひいきがないからです」(ローマ2：11)。神は、力があり、立派で有能な人だけを選び愛する方ではありません。「実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、キリストは定められた時に、不敬虔な者たち(私たち)のために死んでくださいました」「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」(5：6, 8)。

II この神の愛を受けての応答。

1.：2～3の御言葉は、会堂、礼拝の場、キリスト者の集まる場でさえ、えこひいき、差別の罪は遠慮なく入ってくることを教えています。自分の中に人を差別し、えこひいき(原語：「顔、面、外観、表面」を「受け取る」という言葉から来ている)する心があることを正直に認め神に告白し、赦しときよめをいただき、人々を見ると、神のえこひいきをされない目で人々を見ることができるよう祈りましょう。神はこの祈りを喜ばれます。服装、経済状態、学歴、職業(仕事があるか失職中か)、有名さ、容姿、男性、女性、年齢、人種、家庭環境、体と心の障害等でえこひいきや差別をしないように祈りたいと思います。※証し：「障害者」という言葉。私の使い方＝体のある部分に「障害をもっている方々」。神は、私たち人間の価値をそのようなもので量られません。年齢を重ね、できること、記憶力等が、だんだんなくなっても、神の目に存在価値は変わりません。※証し。神の語り掛け→「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」(イザ 43：4)。「自分たちの間で差別をし、悪い考えでさばく者となったのではありませんか」：4→私たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく、判断することがないように祈りましょう。「神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束された御国を受け継ぐ者とされたではありませんか」：5→神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされました。貧しさの中で、私たちは、神を信頼し、真剣に日ごとの必要を祈る信仰に富む者とされます。そのようにして私たちは、すべての満たし主なる素晴らしい神に近づかせられ、生ける神を体験する恵みにあずかれるのです。個人的にも教会としても。

2. 主は、栄光の姿を捨てて、貧しくなり、しもべとして仕え、実に最も低い十字架の死にまで従われました。自らがへりくだり人を決してえこひいきされなかつた主を信じる私たちの心に主が生きておられるのです。「それなのに、あなたがたは貧しい人を辱めたのです。あなたがたを虐げるのは富んでいる人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか」：6→初代教会は、いろいろな形で迫害を受けました。：6にあるように、富んだ人々が、貧しい人々を差別し、「裁判所に引いて行く」ことをしていました。いつの時代も、どこの国でも、強者が弱者を捕え、弱者よりも強者に有利な裁判が起こり得ます。国会議員やその家族の取り調べと庶民への取り調べは公平でしょうか。検察官の取り調べも、国会議員と庶民

の人への取り扱いは公平でしょうか。権限を与えられている人々が、えこひいきがなく、総理大臣でも、国会議員でも、国民の一人一人に対しても、公正な裁きが行われるように祈りましょう。「あなたがたはさばきを曲げてはならない。賄賂を取ってはならない」申命記16：19。イエス様は、敵対している人々からも、こう評価された→「先生。私たちは、あなたが真実な方で、だれにも遠慮しない（忤度しない、えこひいきしない）方だと知っております。人の顔色を見ず、真理に基づいて神の道を教えておられるからです」（マルコ12：14）。イエス様は、すべての人を愛されたが、すべての人から好かれよう、人気者になろうとはされなかった。隣人を愛する事が、すべての人から好かれるとは限らない。主は愛と真実、恵みとまことに満ちた方。

3. 私たちは、自分にも誤った判断をする心があることを真実に認めて、次の御言葉を読みましょう。「裁判では人を偏って見てはならない。身分の低い人にも高い人にもみな、同じように聞かなければならない。人を恐れてはならない。さばきは神のものだからである」（申1：17）。「あなたがたがその名で呼ばれている（クリスチャン、キリスト者＝「キリストに組する、従う者」という意味。「弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった」使徒11：26）尊い御名（イエス様の名、キリストご自身）を汚すのも、彼らではありませんか」：7。「キリストがどうしたと言うんだ。俺は、俺の力でここまで生きて来たんだ」と高ぶり、主の名を冒瀆する者たち。私たちも、主を信じていなければ、そのような心を持つ者でした。そんな私たちを主は愛し、救って下さったことを心から感謝します。

Ⅲ 人をえこひいきしない秘訣

1. まず私たちのことを、えこひいきや差別をせず、心から愛して下さっている主の恵みを深く味わい、思い巡らし、神の愛を受け続け、心から感謝しましょう。
2. 自分の心にも、人をえこひいき、差別する心があることを神に正直に告白し、赦しをいただき、心をきよめていただきましょう。※もし私が、えこひいきなさらぬ主を信じていなかったら？
もっと、えこひいき、差別の心に縛られた人生であった事だろう。今は、主と出会い、障害をもっておられる方々から、教えられ励まされる人生へ。神の目に高価で尊い方々として接する人生に神が変え続けておられる。
3. 人をうわべ、偏見、自分の欲、好みで判断しないように祈りましょう。「うわべで人をさばかないで、正しいさばき（神に拠り頼む判断）を行いなさい」ヨハネ7：24
4. 神のご覧になる目で人々を見ることができるよう祈りましょう。私たちが気づかないうちに差別している人、愛しにくい人を、神は差別せず心から愛しておられることを思い、その人をもう一度、神の正しい愛の目で見ることができるよう。

祈り：私たちのうちには愛がありません。私達は、人をえこひいきしたり、差別したりする罪人です。そんな私たちに、あなたからの愛、人を差別しない、えこひいきをしない真実な愛を与えて下さい。

「神は愛だからです」Ⅰヨハネ4：8。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザヤ43：4

「愛を追い求めなさい」Ⅰコリント14：1

「求め（続けなさい）なさい。そうすれば与えられます」マタイ7：7